

学校教育目標	夢を語り、志を抱いて未来を“そうそう”できる生徒の育成		
--------	-----------------------------	--	--

a ミッション	夢や志を持ち社会に貢献できる人材を育成する	a ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ○安心・安全で、生徒が夢と志を抱き、心豊かに生き生きと活動する学校 ○自ら学び、考え、判断し行動する生徒を育成する学校 ○心豊かに、自他を尊重し、共に学び、高め合う生徒を育成する学校
---------	-----------------------	--------	---

尾道市立御調中学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
御調クロスロード（時間軸と空間軸）	全ての子どもたちの可能性を引き出す教育実践	語彙力・読解力の向上を軸に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現 各種調査の平均通過率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「新聞を読むことで、自分の生き方や社会との関わり方について考えることができます」と答える生徒の割合 NIEタイムの実施 読書数【アンケート】 1人1単元研究授業（11人） 1. 2年 標準学力調査の正答率 全国平均以上（1月） 3年 全国学力 各種検定試験を受験した生徒 	80%	62.1%	月2回 平均月1冊以上	78	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「新聞を読むことで、自分の生き方や社会との関わり方について考えることができます」と答える生徒の割合は62.1%（参考：今年度、県内の2年生に行われた意識調査「本を読むことで自分の生き方や社会との関わり方について考えることができます」の肯定的評価の割合は60.2%） ○NIEタイムの実施は月2回以上行っている。 ○4月実施の「標準学力調査」では、現2年生は、国語・数学ともに全国平均を下回った。現1年生は、国語は全国平均を下回ったが、数学は全国平均を上回った。 ○3年生の全国学力調査では、国語の正答率は67で全国平均の69.0を下回り、数学の正答率は49で全国平均の51.4を下回り、理科の正答率は52で全国平均の49.3を上回った。 ○1学期学校実施実績（受検者数）【漢字検定：15名、英語検定：28名】（全校生徒数に対しての割合31%） 	3	イ	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞は自分の生き方や社会との関わり方を考える機会を作る良い教材だと思つた。 ○「教育に新聞を」のHPで、新聞記者がゲストティーチャーとして学校現場の先生方に、新聞社の仕事を紹介する動画を観る機会がありました。コロナ禍で職場体験学習も思うようにできない状況ですがyoutubeで視聴が可能です。参考に視聴してみてください。新聞について理解が深まります。 ○図書館の本の貸出数で7月までの1ヶ月平均がR3年度65.6%、本年度62.1%で、ほぼ同じ割合です。 ○電子図書を活用や図書室の蔵書の充実などを通して、読書量をアップしてもらいたい。 ○図書室の貸出数の他に、継続集計しやすく、生徒への意識化効果がある方法について検討、工夫してみるのはどうでしょうか。道の駅の前にあることも図書館「すくすく」の利用度、電子図書活用工夫等検討されてみるのもよいかと思います。 ○個別の学習支援が必要な場合があると思います。学力アップ講座や補充学習について次回具体的に教えてください。 ○その年度の学年・生徒の特徴があると思います。学年単位、教科単位で3年間の推移を追跡され、取組内容、方法を工夫されていることは適切だと思います。各教科領域別、種類別に課題として点数にあらわれている内容を一時的に、集中的、ドリル的に繰り返し反復するといくらか数値に反映される場合があると思います。常時は無理ですが、どこかの時期に行われているのも一方法かと思つた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙力・読解力を高めるためには、新聞記事や新聞のコラムの要約や感想を書くことが有効であると言われており、NIEタイムを継続して実施している。生徒アンケートの「新聞を読むことで、自分の生き方や社会との関わり方について考えることができます」の肯定的評価の割合を80%以上に高められるように今後も取組を進める。具体的にはNIEタイムの記事をより生徒と関連する記事となるように選択したり、各教科の授業に関連した新聞記事を紹介するなどしていく。 ○読書数に関する生徒アンケートでは、電子図書を読んでいる生徒もいることが考えられるため、今後は電子書籍を含む読書数を問うアンケート内容に変える。 ○授業で図書室の本を活用したり、図書委員会でおすすめ本を紹介するなどして、読書量を増やす取組を行っている。 ○「学力アップ講座」や「補充学習」を継続して行い、参加した生徒のうち、生徒アンケート「学力アップ講座（道場を含む）」は役立ちましたか」の肯定的評価の割合（一学期約95.0%）がさらに高まるように講座内容を工夫し、基礎・基本の学習内容の定着を図る。 ○各学力調査の結果を分析し、生徒の実態に合った指導にしていきたい。 	
	「御調プライド」で仲間とともに高め合う力と自尊感情の育成	生徒間での成長と、他を思いやる心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高連携や地域ボランティア活動の充実 ・小中高連携や地域ボランティア活動の設定 ○エリア活動・生徒会活動の充実 ・エリア活動の設定 ・各委員会キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域が好き」と答える生徒の割合 「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合 「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答える生徒の割合 小中高連携活動 	90%	75.7	3回以上	84.1	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケート項目「地域が好き」においては、75.7%と目標値に達していないが、「人の役に立つ人間になりたいと思う」においては、95.9%と目標値に達しており、人の役に立ちたいという意欲はあるものの、地域貢献という視点に結びついていない現状がうかがえる。特に、地域貢献に関わる他の項目「地域の行事や取り組みに参加しようと思つている」や「ボランティア活動に積極的に参加したいと思つている」においては、67.6%・71.7%と肯定的回答の割合がやや低い傾向を示している。小中高連携や地域ボランティアの活動機会を仕組み化することが要因と考える。 ○生徒アンケート項目「自分には良いところがある」においては、75.8%と目標値に達しておらず、学校行事等自己肯定感を高める機会が少なかったことが考えられる。しかし、生徒会活動に関わる他の項目「先輩や後輩と協力し、無言無言に取り組んでいます。」「委員会活動や係活動などの生徒会活動に積極的に取り組んでいます。」「エリア活動を通して、先輩や後輩と交流することができています。」においては、94.5%・92.8%・80.3%と肯定的回答の割合が高い傾向を示している。学級旗制作や球技大会などの学校行事を通して、コミュニケーションをとる機会が増え、エリア活動の活性化につながったと考えられる。 	3	イ	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で地域との交流や社会貢献の活動、行事などが出来ず、生徒の皆さんの体験が減少しているのは残念です。感染状況を見ながら、可能な活動があれば取り組んでいただきたい。 ○御調高校で開かれた「小・中・高教員合同研修会」の記事を読みました。講師の浦崎太郎教授は「地域課題解決型キャリア教育」の先駆者とのこと。学校と地域が協働するための具体的な課題設定と実行をお願いします。 ○令和3年度評価で、7月時点の生徒アンケートによると、「地域が好き」肯定的評価86%、「ボランティア活動に積極的に参加したい」62%でした。 生徒が同一でないこと、コロナ感染対策として十分な活動や体験が成されにくかったこと等が考えられるかと思いますが、Withコロナ状況が予想される中で、新たな工夫が必要になってくるかと思つています。非接触的、体験的、効果的な地域反響等から考えられたらとも思つています。 ○小中高連携活動の難しさが現場にはあると思つています。小さくても継続可能な活動は実施につないほしいと思つています。 	
	教職員が笑顔で生徒の前に立てる、ワーク・ライフ・バランスの実現（働き方改革）	業務改善の志向	<ul style="list-style-type: none"> ○業務に専念できる環境の整備 ・教育環境整理（教材庫の整理など） ○学校における定時退校日の推進 ・5時間授業日の設定 ○部活動指導に係る教員の負担軽減 ・部活指導の交代制実施 	<ul style="list-style-type: none"> 子供と向き合う時間が確保されていると感じている教職員の割合 日々の業務の中で充実感を得られていると感じている教職員の割合 時間外勤務時間の削減。 ・1ヶ月の合計 45時間以下 	90%	93%	100%	100	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「子供と向き合う時間が確保されていると感じている」「日々の業務の中で充実感を得られていると感じている」など、教職員アンケートの結果は目標値より高い。市内平均よりも高い。 ○生徒が落ち着いており、保護者のアンケート結果からも「学校は子供を安心して通わせることができる」というアンケート結果が95.6%と高い。日頃の生徒の姿から充実感を感じていると考える。 ○時間外勤務月45時間以下は平均約15%人で全体として時間外勤務を減少できていない。部活動が時間外の原因でもあるので部活動の顧問を2人以上配置し交代で担当できるようにするなど、時間外勤務の削減に取り組む。 	3	イ	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者のアンケートより学校に信頼を寄せている事が良くなった。今後も生徒や保護者の悩みに誠実に寄り添って対応していただきたい。 ○部活動の顧問を交代制にするなど改善策を実施されることを期待します。 教職員の個人のモチベーションに依存して、結果として合理化されず、時間外勤務時間が削減できない状態なのではないか？今後行事の復活で達成が厳しいのであれば、なおさら事前の対応策を練っておかなければなりません。昨年からの「月に一度の5時間授業」について効果を検証し、回数を増やすか、部活指導の外部委託を前向きに検討しなければ、改善できないのではないのでしょうか？ ○全体を通して、保護者アンケートの学校に対する理解度が高いことはすばらしいことと思つています。この事実を根拠に取組を進めてください。期待しています。 ○子どもと向き合う時間が確保されていると感じている90%目標で93%達成A評価、勤務時間外45時間以下目標で15%達成D評価とあり、部活動が主な原因とされています。部活動の現実も、子どもと向き合う時間達成の要因となっているのであれば、肯定的な要素といえます。逆に時間外勤務の低達成率の要因となっているのであれば、否定的な要素ともいえます。教職員アンケートからの達成値ですので、この点で改善に向けた要素となり得るのか、無理な再検討の余地ありかと思つています。その取組の経過が安心して通わせることのできる学校との保護者意識100%に繋がっているのであればなおさらです。 	

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。